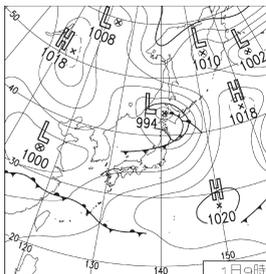


日々の天気図

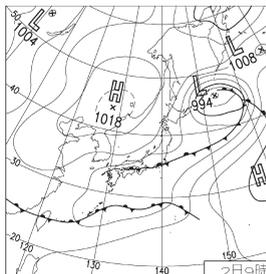
— No. 52

2006年5月

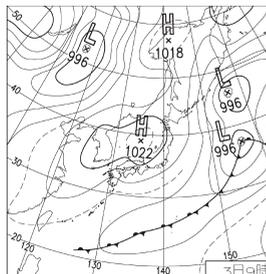
- ・6日～10日、前線の影響で西日本に大雨続く、5日間の総雨量、高知県香美市繁藤635mmに達する。
- ・25日～27日、前線の影響で南西諸島大雨、屋久島377mm/24h。
- ・28日～29日、北海道で局地豪雨、登別市カルルス287.5mm/24h。
(気象庁予報部予報課)



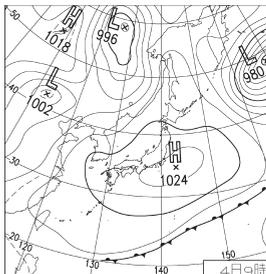
1日(月)熊谷、甲府など真夏日
北海道を低気圧が通過、北日本や北陸、沖繩で雨の他は概ね晴れ。関東～西日本は、低気圧に吹き込む西よりの風が強い。気温、7月中下旬並みの所も、甲府市の最高気温33.4℃。



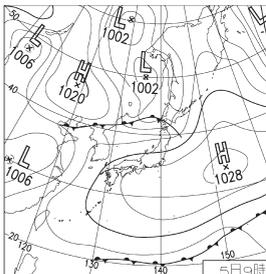
2日(火)前線通過時 各地雷雨
北海道の東海上に低気圧、前線は関東南部から四国に、別の停滞前線が沖縄から日本の南にのびる。関東～中国では朝の内から雷雨。沖縄も雨。北海道の一部で雪の他は曇りや晴れ。



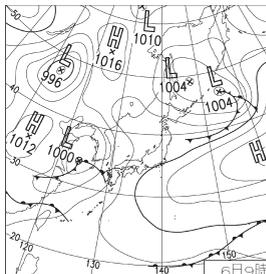
3日(水)全国的に概ね晴れ
日本海の高気圧に覆われる。九州南部から南西諸島では曇り一部で雨の他は概ね晴れ。日中は平年より3～8℃低い3月下旬～5月上旬並みの最高気温。長野市でリンゴ開花。



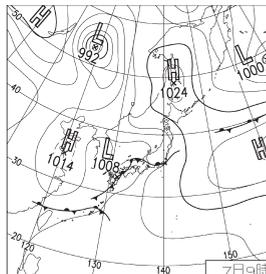
4日(木)トンガ付近でM7.8
日本付近は、移動性高気圧に覆われ北海道北部の曇りや雨、南西諸島の曇り以外は、ほぼ全国的に晴れ。最高気温は平年並み～5月下旬並みの作業日和。



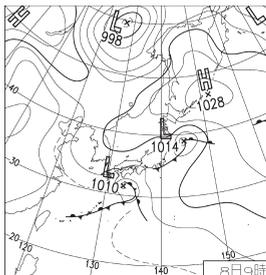
5日(金)高気圧 東へ
移動性高気圧は中心を東に移すが、東～西日本は高気圧圏内で晴れ。前線が通った北日本は雨や曇り。日中は北陸や長野県を中心に6月上旬～7月下旬並みの陽気。



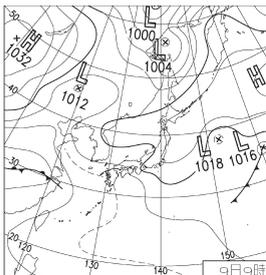
6日(土)天気 西から下り坂
黄海から前線を伴う低気圧が東北東進。九州から雨が降り出し夜には近畿まで広がる。又、南西諸島に停滞前線がのび沖縄で雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。



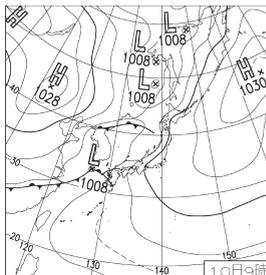
7日(日)四国・近畿で大雨
南西諸島や西・東日本には前線が停滞。北海道で晴れた他は各地雨や曇り。前線近傍の四国や近畿・東海で大雨。和歌山県吉盛川町で262mm/日、高知県香美市繁藤で250mm/日。



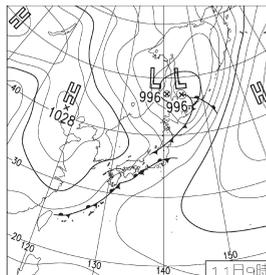
8日(月)関東地方に北東気流
三陸沖と四国の南を低気圧がゆっくり東進。東海の一部で雨、関東、東北の太平洋側は北東気流が入り気温が低く所々で小雨。その他は晴れの所が多く、東海から西では夏日も。



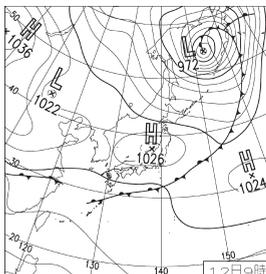
9日(火)台風第1号発生
関東では連日北東気流の影響で曇り4月中旬並みの気温。東海から西日本も曇りや雨。その他は概ね晴れ。長野市では7月下旬並みの30.9℃。ミンダナオ島の東で台風第1号発生。



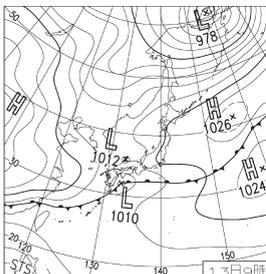
10日(水)低気圧や前線が接近
西日本は終日雨。高知県香美市繁藤で317.5mm/日、5月の極値更新。高気圧の縁を回る南風や日中の日射で北陸や東北は気温上昇。新潟県上越市高田で33.1℃。5月の極値更新。



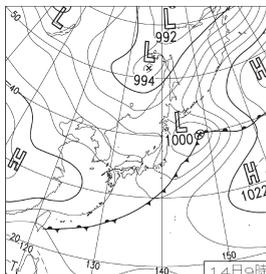
11日(木)全国的に曇りや雨
寒冷前線や停滞前線の影響で全国的にくずついた天気。鹿児島県屋久町尾之間で43mm/1h。朝の最低気温が多くの所で平年より5℃以上高く、6月中下旬並みの暖かさ。



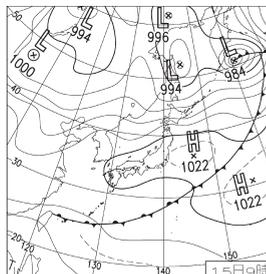
12日(金)東京 6日以上の晴れ間
日本海に中心を持つ高気圧に覆われ、前線は南の海上へ。東・西日本の太平洋側で曇りの他は晴れ。関東や四国の一部でも晴れ。北海道旭川市でエゾヤマザクラ満開。



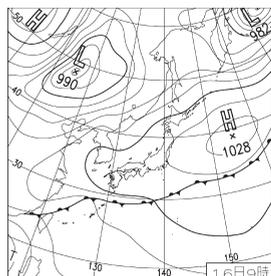
13日(土)奄美地方梅雨入り発表
南海上にのびる前線上を低気圧が東進。東北以西は全般に雨。北海道は晴れ。札幌は最高気温20.2℃で、6月上旬並み。東京は日中の気温が概ね12℃で、3月上旬並みの寒さ。



14日(日)沖縄地方梅雨入り発表
北海道南東海上を低気圧が北東進。北日本は午前中雨や曇り。東・西日本は曇りや曇り、関東南部で午前中雨。前線が停滞した南西諸島は終日雨や曇り。

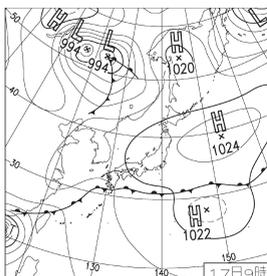


15日(月)穏やかな晴れ
日本付近は高気圧に覆われ、北日本は終日晴れ。関東以西は午後、雲が広がる。沖縄では雨が続き、北海道網走市で最高気温が7月下旬並みとなりエゾヤマザクラ開花。



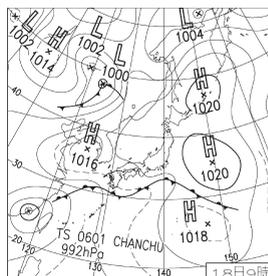
16日(火)北海道で夏日

日本の南海上に梅雨前線が停滞。上空を気圧の谷が通り、北海道で晴れた他は、各地雨や曇り。沖縄県与那国町所野で67 mm/1 h、北海道網走市で27.3℃、7月下旬並みの最高気温。



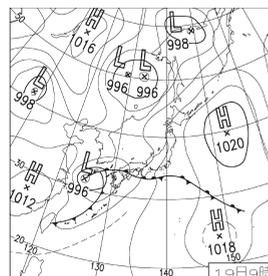
17日(水)東日本、西日本は雨

華南から九州南部、日本の南にのびる梅雨前線が北上、東日本まで雨が広がる。東海上の高気圧の勢力が弱まり、北海道は晴れたが東北は曇り。台風第1号は南シナ海を北上中。



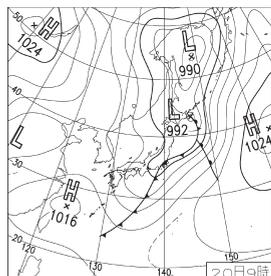
18日(木)南海上に前線停滞

関東～九州にかけては雨や曇り、北日本と北陸の一部は晴れ。北海道宗谷支庁稚内市、網走支庁紋別市でエゾヤマザクラが満開。台風第1号は華南の沿岸を北東進中。



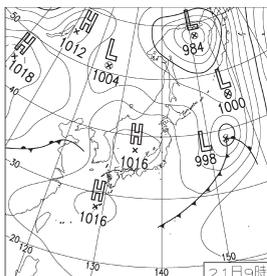
19日(金)台風第1号温帯低気圧に

深い気圧の谷に入り、ほぼ全国的に雨や曇り。西日本には南からの湿った気流が流入。四国では一部で激しく降り、高知県香美市繁藤で83 mm/1 hの猛烈な雨。



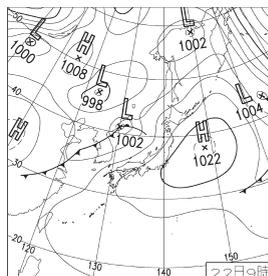
20日(土)埼玉県で突風被害

東日本に暖かく湿った空気が入る。日中上空を寒気の通過、大気の状態が不安定になり関東甲信各地で雷雨。長野県軽井沢町で14 mmのひょう。埼玉県坂戸市では突風で鉄塔が倒壊。



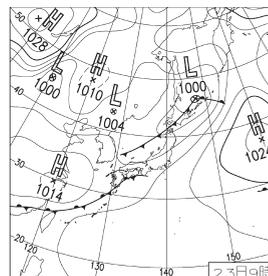
21日(日)全国的に「五月晴れ」

日本海と沖縄付近に中心を持つ移動性高気圧に覆われ、各地とも晴れ。東京もゴールデンウィーク以来の快晴。最高気温は7月上旬並みの所もあるが湿度が低くさわやか。



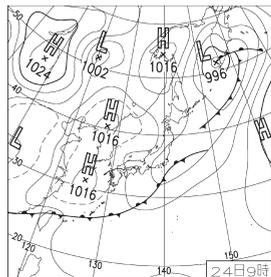
22日(月)北陸、山陰で真夏日

日本海を前線に伴った低気圧が東北東進。北海道や関東、九州で曇りその他はほぼ晴れ。南よりの風が卓越しフェーン現象が発生、金沢市32.6℃、鳥取県米子市32.5℃の最高気温。



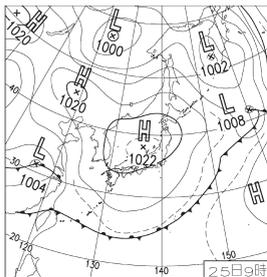
23日(火)寒冷前線東進

千島付近の低気圧から延びる寒冷前線日本付近をゆっくり東進。また南西諸島を前線が東進。全国的に曇りや雨。沖縄県石垣市伊原間で58.5 mm/1 hの非常に激しい雨。



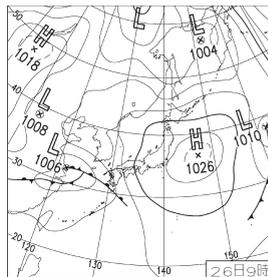
24日(水)関東甲信で午後 雷雨

北日本の一部や北陸で曇り他は概ね晴れ。関東甲信では午後、上空5700 m付近で-20℃の寒気が入り、雷雨。東京都練馬区44 mm/1 h、三宅島で最大瞬間風速36.4 m/s、5月の極値。



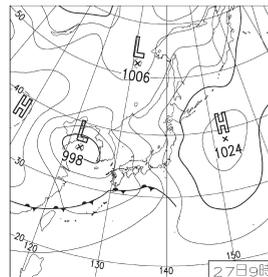
25日(木)沖縄で大雨

移動性高気圧に覆われ、北海道～九州は晴れ、前線に近い南西諸島は雨。沖縄県粟国村で82.5 mm/1 hの猛烈な雨、5月の極値更新。最高気温は九州の一部を除き平年並みか低め。



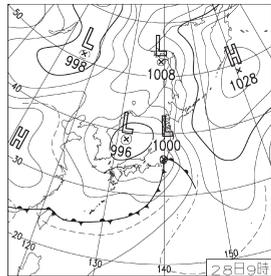
26日(金)九州南部梅雨入り発表

黄海から西日本に前線がのび、北日本の一部で晴れた他は、各地、曇りや雨。九州南部は豪雨。鹿児島県南種子島町で93 mm/1 h、上屋久町で358 mm/日。



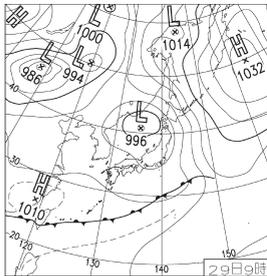
27日(土)前線 南の海上に停滞

東・西日本、南西諸島は曇りや雨。鹿児島県喜界町50.5 mm/1 h、北日本は晴れて、北海道は最高気温が7月上旬～下旬並み、旭川市で29.0℃。北海道根室市でキアゲハ初見。



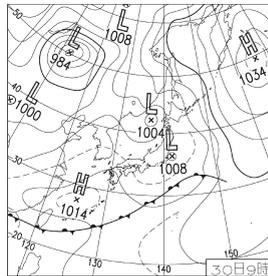
28日(日)日本海に寒冷渦

日本海西部には上空に寒気を持った低気圧(寒冷渦)、別の低気圧が東海沖～東北へ進み、関東～北日本の太平洋側は雨。北海道胆振支庁登別市カルルスでは276.5 mm/日。



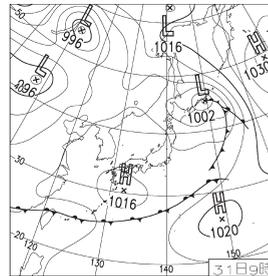
29日(月)日本海の寒冷渦 停滞

北日本はこの影響で雨や曇り。東・西日本では概ね曇りだが、一部で晴れ間も。南西諸島は南に梅雨前線が停滞し雨。長崎市、松山市、兵庫県豊岡市でホタルの初見。



30日(火)関東で雷雨

寒冷渦の動きが遅く、東～北日本は大気の状態が不安定で所々で雨。関東は昼頃から北部を中心に雷雲が発生、夕方南部にも広がる。西日本は概ね晴れ。



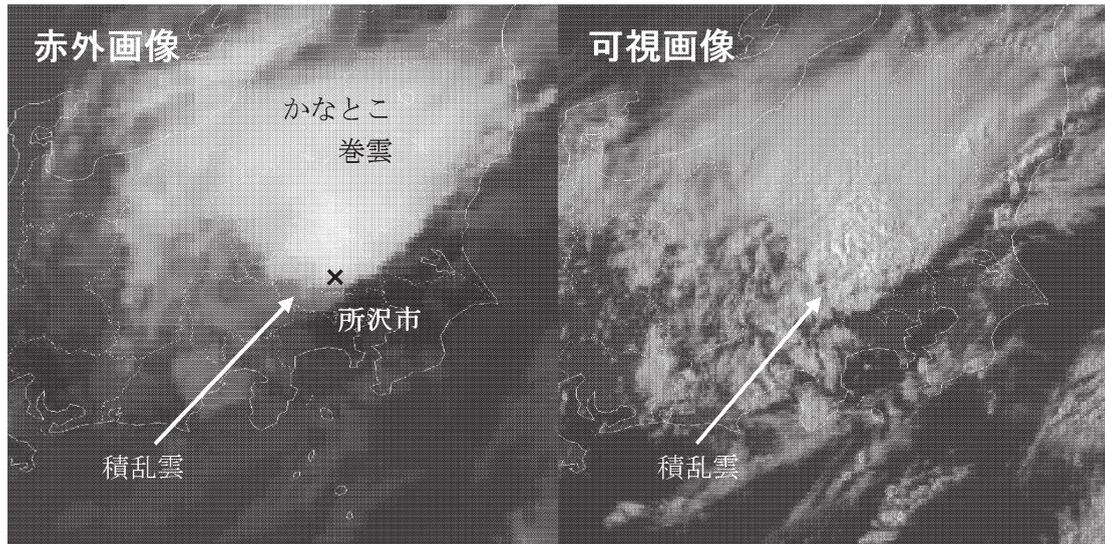
31日(水)沖縄で大雨

低気圧は千島近海を北上。梅雨前線が沖縄付近で活発化。北海道、東北と九州南部、沖縄で曇りや雨の他は高気圧に覆われて晴れ。沖縄県渡嘉敷村で54 mm/1 h、137 mm/日。



今月のひまわり画像—2006年5月

関東地方で急激に発達した積乱雲



赤外面像及び可視画像（2006年5月20日16時）

5月20日の午後、関東地方は日中の昇温と寒気を伴った気圧の谷の通過により、埼玉県を中心に急激に積乱雲が発達した。この積乱雲により埼玉県所沢市で竜巻とみられる突風が発生し、屋根瓦が飛ばされる等の被害が発生した。所沢市消防本部によれば、15時41分に最大瞬間風速26.1メートルが観測され、竜巻が目撃された。

画像はちょうど竜巻の発生した頃観測された赤外面像及び可視画像である。矢印で示す所沢市付近の積乱雲は、赤外面像では白く輝き、雲頂高度が約1万3000

メートルで圏界面に達しているとみられ、顕著な「かなとこ巻雲」が北東側に見える。さらに可視画像でも凸凹した雲域が広がっており、積乱雲が発達していることがわかる。

米国ではたびたび発達した積乱雲が竜巻を発生させ、甚大な被害をもたらすことは有名である。日本でも積乱雲による竜巻被害は決して珍しいものではない。このように発達した積乱雲が出現した時には突風にも注意が必要である。

（気象衛星センター）